



進学塾アベックス アベックス便り 3月号

令和5年3月吉日

おしらせと今月の行事予定

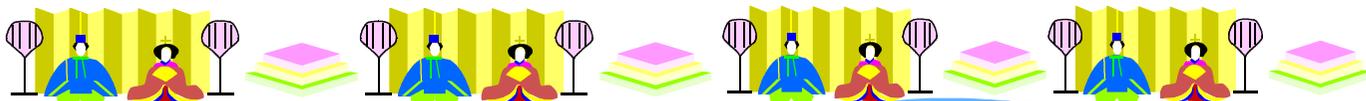
3月より新年度授業が開講します。新学年に備えた準備を徹底させて好スタートしましょう！

※合格速報…おめでとう！

- ◆三光董…常翔学園高[薬/医] ◆高田沙羅…浪速高[特進]
- ◆戸島二菜…大阪学芸高[特進] ◆脇田力羽…大阪産業大附高
- ◆栗本笑愛…大阪学芸高[特進] ◆小日出央里…大阪学院大高
- ◆内田百柚…信愛学院高 ◆松本杷奈…大阪成蹊女子高
- ◆山崎有須…追手門大手前高 ◆高木快成…明星高
- ◆藤井悠太…東大阪敬愛高 ◆物部成海…天王寺学館高
- ◆篠原仁哉…広島/尾道高[難関]

今月の予定

- 1日…新年度開講！
- 10日公立高校入試
- 20日公立高校合格発表
- ◎21日合格祝賀会
- 3/25～4/7日
春季講座スタート
- ◆紹介キャンペーン実施中!!
お友達も紹介者も特典が、
いっぱい!!



前回の続き～大学受験と2度の挫折～

塾長の呟きブログ

モハメッド・アリのキンシャサの奇跡の後、梁先生との死別を何とか乗り越えようと軸足を再度[医学部受験]に向け歩み始めた私は、空白状態の3か月がとんでもない穴を空けていることに気付いた。大体、高校2年生の秋口といえば、大学受験準備の本格的スタートと言っても過言ではなく、ましてや医学部を受験するなら高校在学中に空白時間を作るなんて言語道断のあり得ないことだ。更に大切なモチベーションを向上させ、学習の質と量のアップを自発的に取り込むべき時期ともいえるのに、当時の私の精神は彷徨うばかりで、半ば腐っていたのだ。人生に意義を感じられず、不条理や儚さに無常観を重ねて、人生から逃避していたと言ってもよかった。気が付けば、成績はみるみる低迷し始め、どの教科も後手を踏み始めていたのに焦りを感じていた。気持ちばかり焦り始めても、肝心の学習サイクルを完全に狂わせた以上、空回りばかりして成績は最悪の状態が続いた。簡単に言えば、目標もなく地に足が付かないフワフワと浮いた状態で漂流していた感じだ。そんな調子で年が明け成績も低迷したまま、いよいよ高校3年生を迎えようとしていた。高校3年のクラスは理系クラスの全員男子で構成されていた。公立の共学校で、最後の一年だけ男子校のような学校生活を体験したが、気骨のある男子ばかりで、モチベーションも高く学習環境は良かったと思う。

一年生で切磋琢磨したN君とも同じクラスに復帰したし、高校二年から親交を深めたH君ともそのまま同じクラスで進級した。

何とか高校二年時の空白部分の遅れを取り戻しながら、徐々に成績は持ち直しつつあった。高校在学中は本当に単眼的になり易く、私も主観的かつ単眼思考に陥り、全般的な学習計画がズタズタになっていた。それに気付いた時は、高校三年の夏も過ぎて受験の追い込み充実期にさしかかっていた。

受験計画と受験勉強ほど[客観視]が要求されるものは無い。当時の私は、ひたすら好きな得意科目ばかりに時間とエネルギーを注ぎ込み、主観的にしか思考できなかったのか、受験科目全体のバランスの悪さが際立っていた。特に全教科の完成度が要求される医学部受験に一科目でも不得手な科目はタブーなのに、私には出遅れて苦手な修正不可能の受験科目が二科目もあったのだ。本来なら、苦手教科の克服に全力を挙げるべきなのに、嫌いな科目でシンドイ思いをするくらいなら得意科目で更に完成度を高める方が得策だ…とする誤った主観的判断や、情報収集もせずに単眼的に決めつけた志望校選定が、後々まで自分の人生に影響を与えたことに気付くのは、現実には数年も経ってからだった。そして、一番いけなかったのは、医学部受験に「浪人」は付き物という既成概念のような[言い訳]が、現実に自分の脇の甘さを作り出した諸悪の根源と言ってもよいだろう。

地方の国立一期校医学部と国立二期校医学部の2校を受験して、私はあつけなく不合格の宣告をされ、そのまま[浪人]生活を余儀なくされた。予想通りの不合格ゆえ、落ちて悔し涙も後悔もなく、淡々と気持ちは既に翌年に向けていた。悔しさが無かった事実は、死ぬほどの努力さえしなかった証ともいえるだろう。

私が今でも現場で受験指導する際に、一番重視するのが自己管理であるのは自分の失敗の反省に他ならない。

人間はややもすれば、主観的に独善的に判断し行動しがちだ。こと受験においては、根性論や努力論も大切かも知れないが、何よりも客観的なデータを重視し、更に緻密な分析力を要することを痛感したのだ。だから、それを今日まで現場指導で活かしているのがせめてもの救いで、私のような失敗は我が塾生には決して経験して欲しくない日々願っている。浪人生活で得たものも多少は有ったかも知れないが、若い時期の貴重な時間を只大学合格の為に費やすのは、青春期の時間が勿体ない。現役で合格する事を先ずは基本に全てを思考し行動することだ。

●家業の危機

父の経営する町工場は、いざなぎ景気の波にも乗り順風満帆と思えていたが、オイルショック以降の狂乱物価の不景気のあおりを受け、弱小零細の鉄鋼関連企業は淘汰されつつあった。機械化が遅れた父は、生産性競争の劣勢を強いられ価格勝負が出来ない事態に陥り、精密螺子の生産を縮小させながら最終加工の鍍金業に活路を見出そうとしていた。 [裏面に続く]